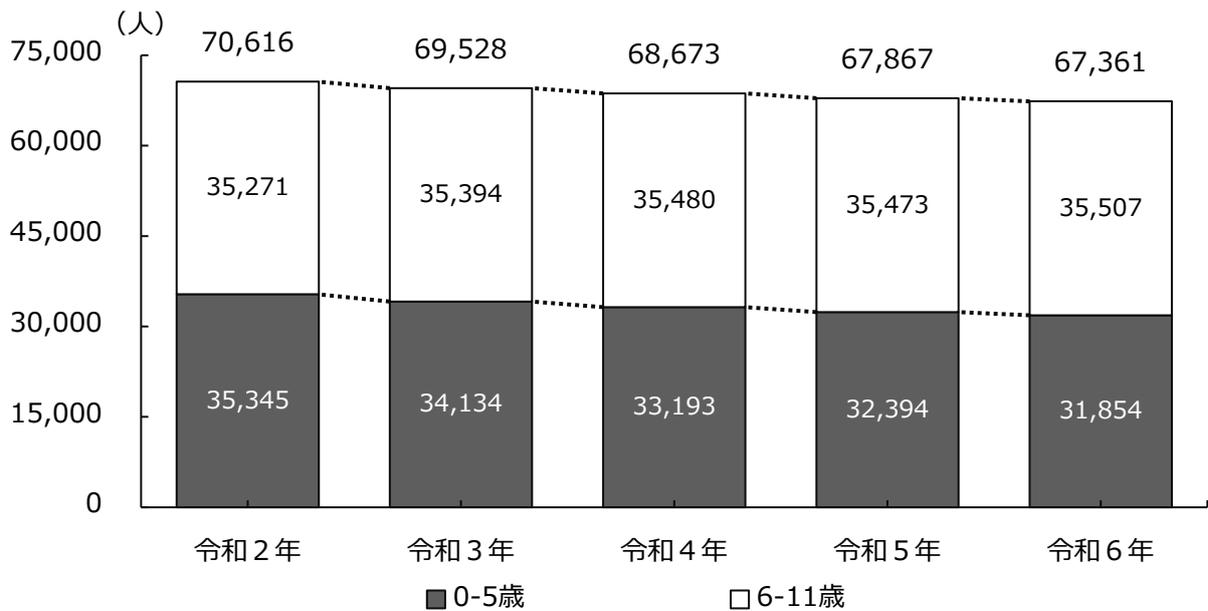


第2章 区を取り巻く現状

1 最新の児童人口の推計

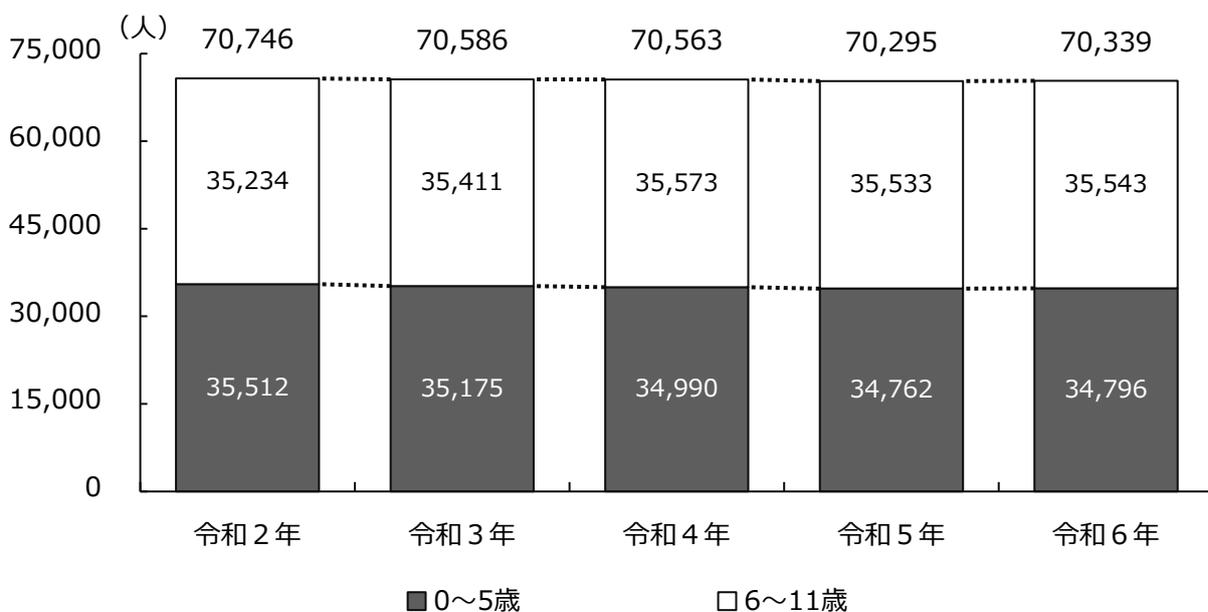
児童人口は近年一貫して減少しています。特に、0～5歳の就学前児童人口が減少傾向にあり、令和5年度以降も同様の傾向が続くことが見込まれます。

【見直し後の児童人口推計】



※令和4年度まで：実績値、令和5年度以降：推計値

【(参考) 見直し前の児童人口推計】



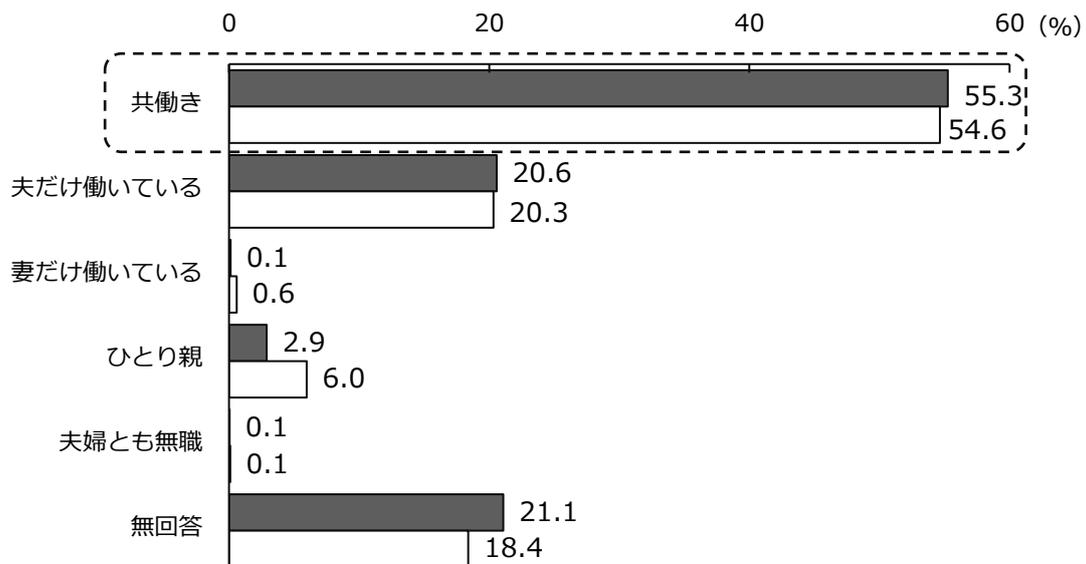
資料：住民基本台帳（外国人登録数含む）各年4月1日現在を基にコーホート要因法により推計

2 子育て世帯の就労状況

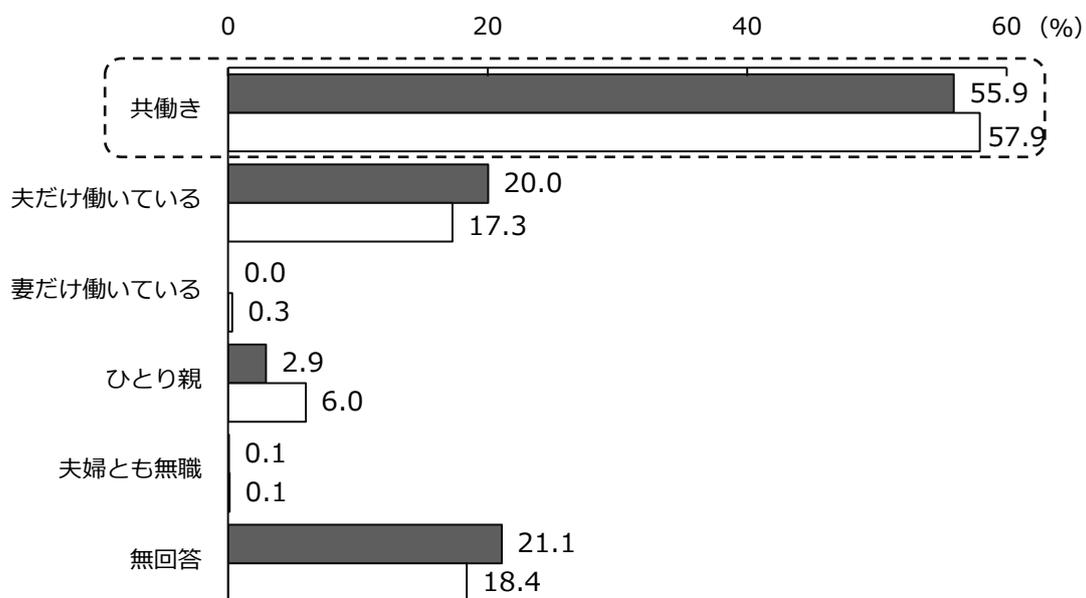
現在の就労状況は、共働きが就学前児童家庭では 55.3%、小学生児童家庭で 54.6% となっています。

将来の就労意向を反映した場合、就学前児童家庭・小学生児童家庭ともに、共働きの増加が見込まれます。

<現在の就労状況>



<将来の就労意向>



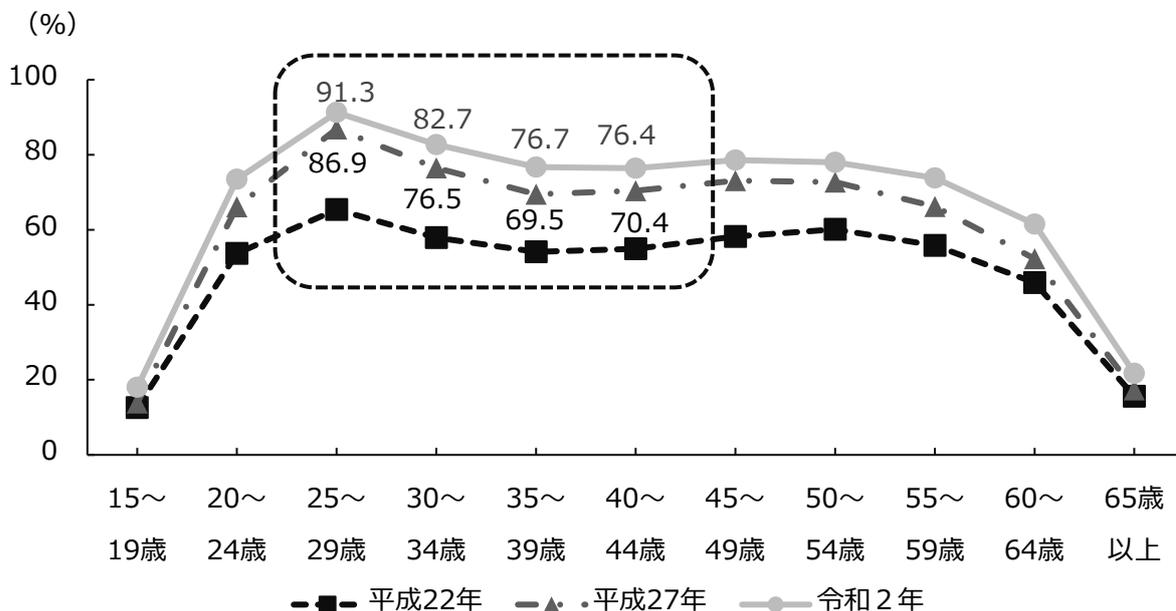
■ 就学前児童家庭(n=1,788) □ 小学生児童家庭(n=1,909)

資料：「第2期練馬区子ども・子育て支援事業計画」の中間見直しの検討に向けた
二一ズ調査報告書（令和4年3月）

3 女性の就労状況と教育・保育サービスの利用状況

(1) 女性の年齢別労働力率

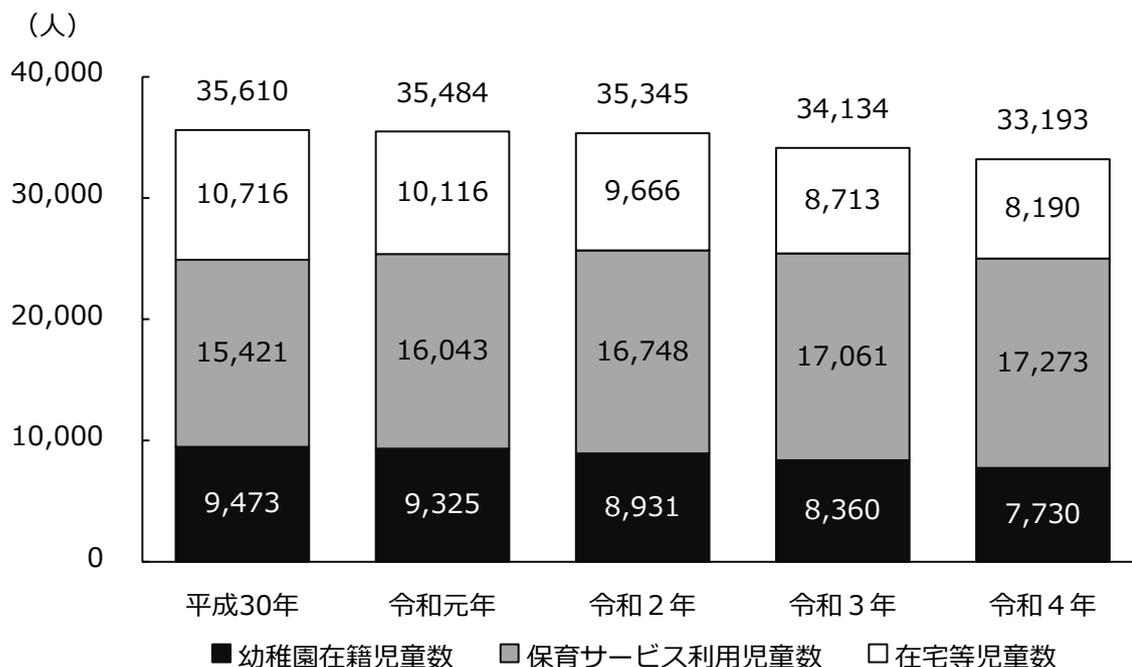
子育て期の女性（25～44歳）の労働力率は上昇し続けています。これまでは「M字カーブ」を描いていましたが、近年は台形に近づいています。



資料：国勢調査

(2) 教育・保育サービス利用児童数の推移

共働き家庭の増加に伴い、保育サービスを利用する児童の割合が増加しています。一方、幼稚園在籍児童および在宅等児童は減少傾向にあります。



資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）、練馬区勢概要等を基に作成